

会 議 録

1 会議名

第3回浦川原区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○ 協議事項（公開）

(1) 前期委員の申し送り事項について

○ その他（公開）

3 開催日時

令和6年7月30日（火）午後6時30分から午後8時33分まで

4 開催場所

浦川原コミュニティプラザ 4階 市民活動室4・5

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：市村一雄、市村千映（副会長）、小野正広（副会長）、金子正徳、北澤誠、北澤正彦（会長）、五井野利一、杉田和久、竹内登美子、西山正成、水澤幸博
- ・ 事務局：浦川原区総合事務所 坂井所長、岩野次長、大島建設グループ長、廣田産業グループ長、唐澤市民生活・福祉グループ長、西山教育・文化グループ長、村松地域振興班長、原田主事

8 発言の内容

【北澤会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 出席者は10人で欠席委員は、杉田委員と松野委員
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しているため、会議が成立する旨を報告
- ・ 本日の会議録については、小野副会長に依頼

【北澤会長】

それでは、2. 協議事項に入る。

【水澤委員】

協議事項に入る前に発言をさせていただく。

第2回浦川原区地域協議会において、令和6年度浦川原区地域協議会活動計画案について、私が発言した際、議長として委員の皆さんから審議、意見を聞くことなく答えられたことを、この民主的な会議において、議長の職責上よくないことだと感じている。このままだと審議にならないと思うが、事務局、委員の皆さんどうお考えか。

【岩野次長】

第2回浦川原区地域協議会で、地域協議会の活動計画案を審議していくという事で話が進んだと思うが、正副会長会議の中でまずは、地域内の視察・現地巡りや、前期委員の申し送り事項について進めていこうという結論に至った。そこに至るまでの話し方や、進め方は色々あると思うが、事務局としては正副会長会議で打ち合わせしたとおり、話が進んでいる状況にあると捉えていた。そのように感じたのであれば、今後、事務局として反省しながら、第6期地域協議会の皆さんと進めていきたいと考えている。

【水澤委員】

承知した。では、地域協議会として協議ができるような議長の進行をお願いします。

【北澤会長】

承知した。

ほかに皆さんから意見はあるか。

(意見なし)

それでは協議に移る。

はじめに、(1)前期委員の申し送り事項についてだが、申し送り事項とは、委員の改正に当たり、前期委員の自主的審議を受けて、市長へ意見書を提出した案件及び地域からの課題と

して委員から提案のあった案件について、継続審議の検討を次期委員へ申し送るものである。申し送り事項の取扱いについては、次期委員が協議し、審議するかどうか判断するため、強制力はない。以上を踏まえた上で、これから説明する。

まず①の自主的審議事項「区内の過疎対策」、「鳥獣対策」についてだが、鳥獣対策については、事務局より「上越市鳥獣被害防止対策協議会」の取組等について、説明をお願いします。

【岩野次長】

「鳥獣対策」について市の取組を簡単に説明させていただく。「上越市鳥獣被害防止対策協議会」は、上越市をはじめ、猟友会、えちご上越農業協同組合、新潟県農業共済組合、そして被害実績のある集落や農業委員会、警察関係者に入っていただき形成している。この協議会は、事業計画として推進事業と整備事業の2つがあり、推進事業の中には、鳥獣被害対策実施隊及び捕獲サポート隊による捕獲活動、そして農作物等の被害調査の実施を行っている。また、有害捕獲の中では、有害鳥獣捕獲活動の支援強化を実施しているが、捕獲だけではなく鳥獣捕獲用資材の導入もこの協議会が行っている。また、狩猟免許取得補助事業や捕獲活動支援事業費の増額も継続している。なお、被害防除という観点から、各種研修会や指導者養成研修会も行い、協議会の皆さんから参加していただいている。スマート捕獲等導入事業ということで、ICT導入計画に基づき、ICTやドローン技術等を活用したスマート捕獲も令和7年度から本格導入する。鳥獣被害対策実施対策強化について、猟銃を使える人を増やすために、猟銃を新規で所持しようとする市民を対象とした銃の取得に係る経費の支援もこの協議会で行っている。また、ジビエ利活用の推進だが、撃っておしまいではなく、それを産業に繋げることができないかという事で取組を進めている。整備事業については、鳥獣被害防止施設という事で、皆さんもご存じのとおり、電気柵の導入支援を行っている。ちなみに昨年度の浦川原区でのイノシシによる水稻被害状況だが、令和5年度は電気柵や箱縄など、体制が整備されたことにより、1.0アールで、令和4年度の70.1アールと比較すると、70分の1まで減っている状況にある。また、令和5年度のイノシシ等の捕獲数については84頭、令和4年度が63頭なのでプラス21頭増えている。今後も電気柵を導入しながらイノシシの捕獲を進めていく。このようなことにより被害の面積が少なくなっているのではないかと想定される。簡単ではあるが、「上越市鳥獣被害防止対策協議会」の取組としては以上である。

【北澤会長】

今ほど事務局より、「上越市鳥獣被害防止対策協議会」についての説明があったが、私からは自主的審議事項、浦川原区内の過疎化対策について簡単に話をさせていただく。

前期地域協議会の中で、出張地域協議会を月影地区を対象に谷集会所で実施した。その際にショックな話を自治会から聞いた。「自治会はあるが、若い人も子供もいない。私らにできることは終活だけだ」というような話を聞いた。ここに生活する人たちが今後どのような生活を送れるのか、公共交通に関わる部分について地域協議会で話をした。また、空き家問題もあったので長野県信濃町から講師を招き、空き家対策の研修会を実施し、地域の皆さんにも参加していただいた。すぐに結論が出る話ではなかったという経緯から、申し送り事項として残してある。私の説明は以上である。

今ほどの説明に質問や意見はあるか。

【西山委員】

7月15日に私もジビエの研修に参加してきたが、どのような対策が行われているか分からなかった。柿崎区のブーシェリーの社長が説明をしていたが、通年駆除した動物を活用するための活動が必要だと思う。ブーシェリーでは、ペットの餌を作り始めているという話があり、そういった活動を高めていかなければならないと思っている。捕獲したイノシシをほとんどは埋めている状況なので、そこに予算を付ける必要があると思う。また、過疎化問題についてだが、信濃町から講師を招いて研修会を実施とあったが、その際の結論や方向性は見出せたのか伺いたい。

【廣田産業グループ長】

鳥獣対策についてだが、今いただいた意見については、農村振興課につなげさせていただく。柿崎区のブーシェリーについては、イノシシ等の肉を処理し、食用として利用されていると私も認識している。また、令和4年度から上越市では、イノシシだけではなくアナグマやクマの肉などを、ふるさと納税の返礼品として活用しており、かなり人気もある。私が承知している内容については以上である。

【西山委員】

食肉になっているものは高級品で結構高い。脂ものっていて品質的にも非常に高く、返礼品になっていると思うが、夏や草の生えている時期に捉えたイノシシについて対策が必要である。食用にしなくても良いので、ペットの餌にするような施設や肥料に活用するような施設があると、ただ単に捕獲して埋める以外の活用が出てくると思う。

【北澤会長】

2つ目の講師を招いての研修会の件だが、最終的に結論は出ていない。方向性も出ていないので、前期委員が申し送り事項として残してある。

ほかに意見はあるか。

【市村一雄委員】

過疎化の話になるが、昨年ベテランチームとヤングチームに分かれてワークショップを行ったのは皆さんご存じだと思う。その際、非常に良い意見も出ており、ワークショップに参加された人と一緒に地域協議会として何かできないかと思うが、そのままになっている。そのことについて何か進展や意見などがあれば教えていただきたい。

【岩野次長】

昨年、持続可能なまちづくりワークショップという事で、大島区、浦川原区、牧区がモデル地区になり、人口の安定を目指したワークショップを行った。ワークショップの内容については、3月の地域協議会で報告をさせていただいている。令和6年度に入り、今後何かやれることはないか総合事務所で協議しているところであった。タイミングが遅くなり申し訳ないが、ヤングチーム、ベテランチームの皆さんに声を掛け、実際に令和6年度は何を進めていくのかも1度整理し、やれるところから進め、盛り上げていきたいと思っている。そのような声掛けもこれからしていくところである。令和6年度で実際にどのような成果が出るかというのは、今後進めていながらだと思うが、進捗状況について随時、地域協議会委員の皆さんに報告したいと思っているのでよろしくお願いいたします。

【市村一雄委員】

努力をしていただいているという話が聞けるだけでありがたいが、もう少し横の連携が密になればもっと良いと思っている。ワークショップに参加した人も地域協議会の委員になってもらいたいという話もあったと思うが、実現はしなかった。そういった思いがある人と一緒に何かできれば、また違ったものが出ると思い意見を出した。

【岩野次長】

横のつながりは地域づくりにとって、とても大切なことである。私どもとしては、ワークショップのメンバー、地域協議会、町内会長、関係団体などつながりを持ちながら、浦川原区をどう良くしていくか考えていきたいと思っているので、よろしくお願いいたします。

【北澤会長】

今、事務局から話があったが、3月にワークショップの報告がなされた。市村一雄委員は出席して分かると思うが、核となる団体で、もっと落とし込んだ議論を進めていきたいというような報告であったと思う。今後動きがあれば地域協議会に報告があると思うので、その際には皆さんの意見を聞きながら、地域協議会を進めていきたいと思っている。

ほかに意見はあるか。

(意見なし)

次に②の中学生との意見交換会、ワークショップについてだが、浦川原区地域協議会では10年近く中学生と意見交換を続けてきており、大変有意義であった。できることであれば継続していきたいと思っているが、事務局で事前に東頸中学校と意見交換をしてきたと聞いている。意見交換の内容について事務局から説明をお願いします。

【岩野次長】

令和6年4月1日に浦川原中学校、安塚中学校、大島中学校の3校が統合し、東頸中学校となった。統合をうけて区域が広がり、また、地域協議会も3つの協議会が関わってくることとなり、その部分も含めて、6月17日に東頸中学校に出向き、意見交換をしてきた。

内容について、当然継続してきた事業でとても大切な部分ではあるが、統合して1年目という中で、大島中学校や安塚中学校でも継続してきた事業がほかにもあり、浦川原中学校で継続してきた事業と同じように、東頸中学校で継続してほしいという話が来ているということであった。ただ、東頸中学校としては、まずは3区子ども達と一緒に学んでいくということを中心に考えていく中で、それぞれの中学校の事業を整理しなければいけない状況にある。地域協議会においても、3区が絡んでくるため整理が必要であり、今年1年については、東頸中学校、地域協議会事務局とも整理期間に充て、情報交換をしながら来年度以降に進めていく必要があると、東頸中学校と意見交換を行った。

【北澤誠委員】

私も同じ意見を持っていた。統合したばかりの中学生に対し、意見交換会を実施するのは難しいと思っていた。ただ、中断となると今後再開するのも難しい。準備期間として期間を空けることが妥当だと思うのでそのとおりに進めていただければよい。

【北澤会長】

ほかに意見はあるか。

(意見なし)

次に③の文化の継承について、私から説明させていただく。今ほど東頸中学校との意見交換会の話があったが、この中で地域の伝統文化に学ぶという形で、月影雅楽、飯室神楽、保倉川太鼓の3つの団体について、中学生と一緒に各地を回りながら勉強を重ね、団体が抱える課題、問題等を中学生と一緒に考えるということを3年間行った。その中で、コロナ禍ということもあり、団体の活動もままならない、また飯室神楽については、神楽のお面が高額で、お金と人の部分で継続が難しいということもあり、何とか支援できないかという話から自主的審議事項にさせていただいた。結果として支援という形はとれなかったが、地域協議会として、月影芸能まつりやうらがわらまつりなど、色々な形でアプローチしながら、伝統

芸能を皆さんに見ていただける機会を作り、見ていただくきっかけを地域協議会から発信できないかということで申し送り事項となっている。自主的審議事項になった経緯については、資料として多く残っている。もし興味のある人がいれば、お渡しするので声を掛けてほしい。

【水澤委員】

文化の継承は地域に及ぼす影響が大きいと思っている。3区の中学校が1つになったからといって、それにこだわらず、それぞれで取り組む方法もあると思う。全て一元化するのではなく、地域にとって、大切な子ども達である。学校運営協議会もそうだが、3つの地域で対応できる姿勢、子ども達の存在をアピールできる予算付けを行政に工夫してほしい。

【岩野次長】

浦川原区だけでなく、3区で取り組むべきものがあると思っている。各団体の事業の取組と、地域独自の予算事業の予算については、団体ごとの考え方がある。浦川原区でいうと、飯室神楽、月影雅楽、保倉川太鼓があるが、大島区や安塚区にも同じような団体がある。そういうものを含めた中で考えなければならないと思っている。

中学生だけではなく、小学生や20代、30代等、そういう地域の人たちも事業に取り組んでいただきたい。そして、その活動団体が地域独自の予算事業を活用したいということであれば、応援したいと思っているし、協議、検討も考えている。

【北澤会長】

中学生との意見交換会は難しいという説明があつたが、1つ報告として、浦川原小学校の4年生が総合学習の時間で飯室神楽を勉強している。そして8月3日のうらがわらまつりで飯室神楽を演じてくれる。気持ちを持って対応していただいた飯室神楽さんに感謝しているとともに、先ほどの文化の継承のひとつとして、披露する機会が設けられ、また、団体が対応してくれることに関し、地域協議会委員で文化の継承について時間をかけ、協議、審議をしてきて良かったと思っている。

ほかに意見はあるか。

(意見なし)

次に④の意見交換会についてだが、小野副会長に説明をお願いします。

【小野副会長】

出張地域協議会の中で、意見交換会を実施したが地域の皆さんから意見があまり出なかった。地域協議会とすれば、地域の問題点を拾い上げ、地域協議会の中で自主的審議事項として協議していきたかったが、実際開催したところ、行政への意見に偏ってしまった。今後意見交換会を行うのか、テーマを事前に設定し地域の皆さんが意見しやすい意見交換会にする

のか、どのように進めていくのがよいのか、地域協議会委員の意見をお聞きしたい。

【市村一雄委員】

私自身も町内会の役員をやっているが、意見交換会とは別に、行政が主催する出張なんでも懇談会にも参加している。地元としては人数を集めなければならないという暗黙のルールがあり、とにかく人を集めるのが大変である。できれば一本化してほしいというのが地元の気持ちである。そんな中、出張地域協議会に参加し、意見を言うとなれば行政への要望しか出ない。意見交換会を実施するのであれば、テーマを設定しない限り、意見は出てこないと思う。

【岩野次長】

私から、出張なんでも懇談会の取扱いについて説明させていただく。浦川原区では地区別懇談会を出張なんでも懇談会という形で、例年4地区で開催していた。その中で、小野副会長の話のとおり、意見よりも要望が多くあり、また、役員からは人集めが大変だという話も聞いていたので、4月に行われた町内会長連絡協議会において、行政が主催する出張なんでも懇談会は行わず、例年、町内会から市道の補修等に係る地区要望書を提出してもらっているので、その中に町内会全体の要望や課題も含めて提出していただくことを提案し、承認をいただいた。ただ、各町内において、意見交換したいという要望があった際には、総合事務所が出向いて意見交換するというので、町内会長連絡協議会で承認をいただいた。出張なんでも懇談会については、今年度から行わないということでご理解いただきたい。

出張地域協議会については、会長から説明をお願いします。

【北澤会長】

出張地域協議会については、あくまで、今期の委員の皆さんの意見があり、それを協議した上で実行に移るものである。もし意見がなければあえて出張地域協議会を行うことは考えていない。出張地域協議会について皆さんと協議したいと考える。いかがか。

【市村一雄委員】

出張地域協議会を実行する、しないの部分については、どのレベルで話し合いをするのかということが、問題になってくると思う。今の段階では、無理に出張地域協議会はしなくてもよいと思う。

【北澤誠委員】

出張地域協議会は、他区の地域協議会では行っていない。市村一雄委員が言われたように人を集めるのが大変ということは分かる。私は平成26年の最初から携わっているがとても良い取組だと思っており、ここまで実績を積み上げてきた出張地域協議会なので、継続して

いきたい。

【五井野委員】

市村一雄委員の意見に賛成で、出張地域協議会は特に必要ないと思っている。出張地域協議会が目的であれば、やるべきだと思うが、本来は手段だと考える。地元住民の声が聞きたいということが目的で、目的のないフリートークを行う場ではない。北澤誠委員が言われた実績を作る目的があるというのであれば出張地域協議会として行くべきだが、目的にはならないと思う。例えば、自主的審議事項を固めていく中で空き家対策を考え、それについての問題点や意見を各地区で聞かせてほしいというのであれば開催すべきだが、そこまでの議論が進んでいないので今は必要ないと考える。

【水澤委員】

必要に応じて、現状を把握するために開催するということが良いと思う。

【金子委員】

出張地域協議会だが、4地区でだいたい何人くらいの人出席しているのかお聞きしたい。

【小野副会長】

大体どの地区も役員が出席している状況である。出張地域協議会の中で自主的審議事項の話をして、地域の人たちは理解できない所があると思う。地域の人たちが聞いて分かるような地域協議会や意見交換会にしなければならない。それぞれ意見をいただいた中で、開催について皆さんと協議していけばよい。

【北澤誠委員】

最初に出張地域協議会を実施していた時は、小学校の統合問題が関わっていた。その際は地域の意見もたくさんあり、やはり目的をもって実施するというのが一番良い。

【北澤会長】

ほかに意見はあるか。

(意見なし)

⑤の地域協議会について、委員がお互いに率直な意見を述べ、意見交換を行うことにより、議論が深まり、地域協議会が活性化すると考えるので、部会、小グループなどに分かれてフリートークを設けられるように任期の初めに議論していただきたいという申し送りがあった。実際、地域協議会の中で、フリートークの場は基本的に設けないのが現状であるが、身近なところから、皆さんが住んでいる地域のことを、こんなところで困っているなど、意見交換できる場がないというのが今までの地域協議会である。これは皆さんから賛成をいただければの話だが、今期の地域協議会に関し、地域協議会終了後、非公開で5分から10分程度の

フリートークの時間を作りたいと考える。いかがか。

【水澤委員】

事前に資料をいただき、この申し送り事項が気になり、本人と会う機会があったので直接話をし、想いを聞かせていただいた。理由としては、地域協議会では意見が反映されず、意見を抑えられてしまうということであった。私とすれば、部会、小グループについての議論は審議上必要であれば設置することであって、皆さんが発言しやすいようにするのは、議長次第である。フリートークについて、非公開で議事録に掲載されない形式で実施することは良いと思う。

【北澤誠委員】

ここ数年、地域協議会委員になってから、各地方自治体の地域協議会を傍聴している。そこで色々な話の中で、議事録を止め、議論している様子が見られる。浦川原区地域協議会でも以前行っていた。当時の経緯は分からないが、終わった後別室に行き、フリートークをしていた。

【市村一雄委員】

無理にとは言わないが、例えば審議について継続するかどうかについて、3、4人で下準備として話し合いができる場があってもよいと思う。12人全員で話をするより、問題に対して3、4人で別に集まり話し合いをするというのでもよい。

【水澤委員】

そういうことは水面下でやることであり、組織としてやる必要はないと思う。

【市村一雄委員】

そういったこともよいと思い発言した。

【北澤会長】

私から皆さんに問いかけているので、私から話をさせていただく。地域協議会の運営に当たって、基本的に審議、協議、自主的審議事項という項目がある。そして皆さんから意見をいただくのが地域協議会の運営である。それに当てはまらないこと、または協議事項になるまでの意見等も皆さん持たれることは結構あると思うが、その意見についてここで伺うのは運営上難しいところもある。それを踏まえ、会議は公開の義務もあるため、あくまで地域協議会終了後に非公開の中で、皆さんの意見を聞き、その中から次のステップとして、興味または自主的審議事項に至る案件が出てくることを期待したい。反対であれば意見を聞きたいが、いかがか。

【水澤委員】

新しいやり方だと思うし、私は賛成である。

【五井野委員】

毎回やるという決まりではなく、その日の雰囲気により会長判断でよいと思う。例えば本日の会議ではやる必要はないと思うが、逆に煮詰まらない、発言しにくい雰囲気があれば、会長からフリートークの開催について、声掛けをしてもらえばよいと思う。

【北澤会長】

皆さんの意見を聞き、今後、地域協議会后必ず実施するというわけではないが、できるだけそのような時間を作りたいと思っている。逆に皆さんからもう少し話したいというアピールをしていただければ、フリートークの時間を設けたいと思っているのでよろしくお願いいたします。

【岩野次長】

事務局も皆さんが話しやすいような環境を作っていきたいと思っている。小さなことから良いので、地域からの意見などをこの場に出していただきたいのでよろしくお願いいたします。

【北澤会長】

次に⑥ほくほく線の利用促進及び利便性向上について、小野副会長より説明をお願いしたい。

【小野副会長】

⑥ほくほく線の利用促進及び利便性向上についてだが、地域の住民の声を反映させていくことを協議し、実現に向けて審議を継続、また浦川原区で何か情報を発信し、行動に移すということで、継続審議として残してほしいということで述べられている。ただ、JR黒井駅への停車本数を多くするなどについては、ほくほく線とJRとの兼ね合いもあるため、意見として出すだけとなった。

実際の実施としては、駅舎利用に関して、昨年小さなカフェということで、うらがわら駅の駅舎を利用し、地域の人たちにコーヒーを提供したり、マジックショーなどのイベントを開催した。参加された人たちの声を聞いたところ、楽しかったという声もあり好評であった。今後も継続して、より大きなものにしたいということで意見として残している。また、北越急行(株)のネットショップ網を生かした物品販売事業ということで、こちらに関してはNPO夢あふれるまち浦川原に一任している。今ほど話した内容について、地域協議会としてどう取り扱っていくか皆さんから審議していただきたい。

【市村一雄委員】

コロナ前に虫川大杉駅に、小さな図書館ではないが本を置いて時々入れ替えをしていた。コロナが始まったことで、ラベルの付いているもの以外入れられなくなってしまったということがあった。ご存じの人がいるか分からないが、虫川大杉駅に自由に書けるノートがある。すぐに書き終わったこともあり、より分厚いノートを一冊入れた。なぜこういうことをしたかというと、身近な私たちの駅という想いをもちたかったからである。商工会の青年部、女性部も掃除をしているし、漠然とした言い方だが、我が物、我が身という想いを持たない限り、ほくほく線は使い道がなくなる。今が勝負所だと思うので、ぜひ継続して進めていただきたいと思う。

【北澤会長】

私から補足させていただく。ほくほく線の利用促進及び利便性向上に関して、駅舎の部分は上越市の管理である。ほくほく線の利用について、今は高校生の通学と、一般の人の通勤で利用されている。いわゆる浦川原区における必要な公共交通の1つという位置付けで考えると、皆さんに利用していただく方向性について見出せるのではないかという思いと、市村一雄委員が言われた、地域の駅であるということ認識してほしいということが、この申し送り事項に込められている。また、方向性について皆さんと協議していきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

【水澤委員】

以前、北越急行(株)と共同でイベントを開催したことがあり、色々と付き合いもある。霧ヶ岳温泉ゆあみがクローズしたり、コロナがあつたりと難しいかもしれないが、虫川大杉駅には長い屋根があるので、そこでバーベキューなどもしたいと話したこともあった。先ほどから皆さんが言われているように、ほくほく線の利活用について、行政も含め、色々と仕掛けていければと思っている。

【小野副会長】

地域協議会としてできることは限られている。実施主体にはなれないので、地域協議会としてどう関わっていくかを議論する必要がある。ほくほく線の利用促進及び利便性向上について継続審議として残していくということで、共通認識があると感じたので、会長と事務局とも相談して進めていく。

【北澤会長】

公共交通に関して、何か案や事業があつた際には、NPO夢あふれるまち浦川原で実施していただいた。地域協議会としては、地域住民、団体、NPO夢あふれるまち浦川原と意見

交換を重ねながら一緒に話を進めていきたいと思っている。皆さんから意見をいただかない限り、前には進まないのでもよろしくお願いいたします。

【水澤委員】

実施主体の話は仕方がないことであるので、現在の4地区にやる気を出してもらい、やりがいを感じられる仕掛けをする必要がある。4地区のコミュニティを再構築するという面から、十分効果のある事業だと思うので、地域協議会としては上手に対応してもらえればよいと思っている。

【北澤会長】

ほかに意見はあるか。

(意見なし)

次に⑦の浦川原区における「地域活性化の方向性」についてである。これについては事前に配ってある資料のとおりで、前期地域協議会の中で協議をしたもので、自主的審議に至ったものの全ての想いが入った方向性である。しかし、この内容に沿って方向性を出すというのではなく、これを踏まえて皆さんからこの部分は直した方がよいなど、意見を持ち寄った中で協議できればよいと考える。説明という形ではないが、意見や質問などあるか。

【水澤委員】

商店及び飲食店の新規開店の促進についてだが、大きな集まりや宴会ができないのが浦川原区の不便な部分である。霧ヶ岳温泉ゆあみがクローズのままだが、以前は近いところに食堂もあり、店舗も多くあった。その部分を利用することは考えられないか。

【岩野次長】

霧ヶ岳温泉ゆあみについてだが、市の施設として廃止となっているので今すぐ利用するというのは難しいと思われる。ただ、地域活性化の方向性にも書いてあるとおり、移住者が来たり、そういった商店などがあると、地域活性化につながってくると思っている。「地域活性化の方向性」はあくまで、委員の皆さん、そして市が同じ方向を向きながら課題を協議、議論していく意味もあるので、具体的な部分も確かに大事だが、そういった視点で見ていただきたい。

【北澤会長】

前期地域協議会で説明があったが、霧ヶ岳温泉ゆあみを活用したい事業者が見つからなかったと報告を受けている。現状上越市として廃止という形であるが、問い合わせ等に関しての窓口は持っているということで間違いはないか。

【岩野次長】

間違いない。言葉が足りなかったが廃止というのは、施設の条例廃止という意味での廃止であるので、活用したいという人がいれば相談に乗るのでよろしくお願ひしたい。

【北澤会長】

ほかに質問はあるか。

(意見なし)

最後に⑧予約型コミュニティバスについて、小野副会長から説明をお願いする。

【小野副会長】

予約型コミュニティバスについて、既に浦川原区で運行されているもので、私の意見で恐縮だが、実際運行してどうだったか検証し、より良いものにしていきたいという想いから申し送り事項として残した。利用者が少なくなってくれば廃止という可能性もあるので、皆さんの意見を聞きながら、どのような形で自主的審議事項として残していくのか協議していきたいと思っている。

【北澤会長】

今の説明の中で、質問や意見はあるか。

【市村一雄委員】

1度も乗ったことはないが、運行時間は何時から何時までか。

【岩野次長】

浦川原区では午前6時30分から午後7時30分まで利用できる。第2回浦川原区地域協議会で予約型コミュニティバスの利用実績について説明させていただいたが、その中で6月末までの3か月間の利用実績が出ているので参考までに説明させていただく。

浦川原区と大島区に関しては、令和6年度から予約型コミュニティバスの運行を開始している。ただ、半年間は実証運行ということで、本運行は10月1日の予定だということをご理解いただきたい。安塚区と牧区に関しては、令和4年度から実施しており、既に本運行となっている。上越市としても検証しながら今後広域化も含め、考えていきたいと思っている。

現在の浦川原区の利用状況は、3か月間で380人が利用している。月平均127人で、1日あたり6.4人が利用していることになる。また、浦川原区は112箇所の停留所がある。その中で乗車が1番多い停留所は、ナルス浦川原店で、その次に菱田、総合事務所前、真光寺入口、うらがわら駅である。降車については、総合事務所前、浦川原バスターミナル、浦川原診療所、真光寺入口、菱田という順であり、ここからみて取れるのは、買物や銀行、通院などで利用される人が多く、また、菱田や真光寺入口を利用される人は通勤で利用され

ている状況があると、データから読み取れる。今後データが蓄積され、検証し、効率的な利用促進が少しずつみえてくるというように考えている。

【北澤誠委員】

利用実績の集計の中で、スクールバスの実績は含まれていないのか。

【岩野次長】

含まれていない。

【北澤誠委員】

予約型コミュニティバスが運行しているのは分かるが、実際の運行状況が分からない。データを集めたいと思っているが、総合事務所に行けばデータは揃うか。

【岩野次長】

今以上のデータということになれば、データは積み重ねであるため、すぐに用意できない。時間をいただきたい。

【五井野委員】

予約型コミュニティバスについて、利用者登録はしてあるが利用はまだない。4月12日に月影の郷で行われた東頸中学校の開校式典の際に利用しようと思ったが、到着時刻を指定し、逆算で迎えに来るという話であった。そうすると、私が仕事を切り上げて帰る時間より、前の時間を指定されてしまい、利用ができなかった。その辺りがうまく調整できるようになれば、より使いやすくなると感じた。

また、正式名称である「浦川原区予約型コミュニティバス」の通称としている、「浦川原区コミバス」がダサい。なんでも縮めればよいというものではなく、もう少し浦川原区に住んでいる皆さんが馴染めるような通称に考え直してほしい。

【岩野次長】

「浦川原区コミバス」という通称だが、年配の人だと浦川原区予約型コミュニティバスという長い名称だと言にくいということで、縮めた部分はあるが、本運行する中で、今ほどいただいた意見を踏まえ、浦川原区予約型コミュニティバスの通称名を募集するというのも面白いと思っている。実行するかどうか、確約はできないが、よろしく願いたい。

送迎時間については、利用者から何時に迎えに来て、何時に着きたい旨を予約の際に伝えれば、動いてくれる。ただ、五井野委員が言われたようにあくまで乗り合いなので、利用者が1人であれば可能だが、複数人いる場合は、複数人を効率的に目的地まで送迎するルート、時間を設定するので承知いただきたい。

【北澤会長】

ほかに意見や質問はあるか。

(意見なし)

以上で協議事項、前期委員の申し送り事項についてを終了する。ここで終了するという話をしたのは、この申し送り事項について、皆さんから採択をいただくことは基本的に考えていない。

本日説明し、皆さんから貴重な意見をいただいた。今後も意見をいただき、自主的審議事項として地域協議会で審議をすることがよいと思っている。そのような方向性で、ぜひ皆さんの意見をお待ちしている。

事務局からほかにあるか。

【岩野次長】

事務局からはない。

【北澤会長】

次に4. 次回の会議日程だが、8月29日(木)で考えている。いかがか。

【市村一雄委員】

1つ心配として、若手の松野委員が2回連続で出席できていない。仕事上、1か月前の日程決めだと調整できないのではないか。今回は8月29日(木)ということでよいが、その後の日程調整について、もう少し検討していただければと思う。

【北澤会長】

余談ではあるが、別の会にて毎月末の何曜日という設定であれば、早めに予定が組め、出席できるという話をさせてもらっている。地域協議会において、次回の開催日に関しては当日の地域協議会の際に日程を決めるということになっているので、今回も同じように決めた。もし市村一雄委員が言われたように、2か月先まで決めるなど可能であれば、そのような形で進めていきたいと私も思っている。皆さんいかがか。

【水澤委員】

皆さんが参加することを考えれば、2か月先、3か月先の日程を決めるべきだと思う。

【北澤誠委員】

私も早めに予定が欲しい。せめて2か月先の予定が組めればよいと思っている。また、会議の日程が月末に集中することに関して違和感がある。いかがか。

【北澤会長】

月末に集中している理由としては、広報上越や総合事務所からのお知らせ等が25日に配

布される。その内容の中で、審議が必要な案件もあることを踏まえ、25日以降を想定している。こだわらないということであれば、日程を決める際に話をしたいと思う。第4回地域協議会については、8月29日（木）を予定しているが、9月の第5回地域協議会については8月9日（金）の令和6年度浦川原区地域協議会委員研修会の際に日程を決めたいと思っているが、いかがか。

【水澤委員】

月末に行くということであれば、地域協議会の度に日程を決めるのではなく、あらかじめ日程を決めていただいた方が、私とすればありがたい。

【北澤会長】

そう言っていただけるとありがたい。8月9日（金）に方向性を出すので、そこで皆さんの意見を聞きたい。

次回は、8月29日（木）の午後6時30分からの開催としたいが、いかがか。

（「はい」の声）

以上で、令和6年度第3回浦川原区地域協議会を閉会する。

浦川原区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：025-599-2301（内線305）

E-mail：uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別途の会議資料もあわせてご覧ください。